

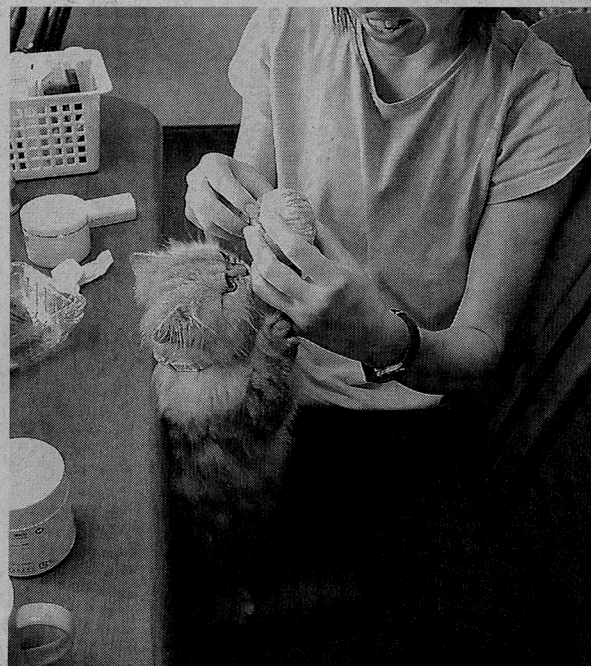
# 性同一性障害、職場が拒絶

「この先、女として生きるのも、男として生きるのも、生きづらいのには変わりがない」。山口県岩国市で1月、性同一性障害の女性(29)が自ら命を絶った。

遺族によると、「障害を恥とは思わない」と言い、仕事に生きがいを感じていた。しかし、障害を知った女性の同僚らに拒絶反応を示され、解雇されて以降は抜け殻のように。胸をつかみ、顔をゆがめて「この体が嫌なんよ」と、泣いた。

遺族は、不当な解雇が自殺の原因として、勤務先などに損害賠償を求め提訴。山口地裁岩国支部の訴訟を通じ、「目に見えない」障害を周囲に理解してもらえなかった女性の苦悩と向き合う。

## 山口 告白の女性、命絶つ



性同一性障害を告白し、その後自ら命を絶った女性

(山口県岩国市の自宅)

### 「不当解雇で絶望」遺族は提訴

子どものころから、とが苦しかった。当ままごとや縫いぐるみり前のように暮らすよりも、少年漫画や車年代の男性がうらやまのおもちゃが好きだった。大学卒業後、家業の感するようになった。昨葛藤(かっとう)に耐

えられずに会社内ですトカットした傷を見られたことをきっかけに、昨年11月、信頼する同僚に性同一性障害を告白した。

年4月、地元の中古車販売会社に就職すると仕事に熱中。「人生で一番充実した時間」を迎えた。自分の居場所を見つけた、と思った。

えられずに会社内ですトカットした傷を見られたことをきっかけに、昨年11月、信頼する同僚に性同一性障害を告白した。

に、「心が男」と言う態度が変わるのはおかしい。周りの人が娘のありのままを受け入れていてくれれば…」

その一方、職場が楽しくなるほど、同僚の内面が男であることを隠しているのが苦しくなってきた。昨葛藤(かっとう)に耐えられずに会社内ですトカットした傷を見られたことをきっかけに、昨年11月、信頼する同僚に性同一性障害を告白した。

だがそれを機に同僚の態度は一変。しばらくして「(リストカットで)社員に恐怖を与えた」ことを理由に解雇された。女性は地位を失うのは生きる意味を失うのと同じ」と絶望的な思いを文章につづっていた。

女性の死後、母親は会社に遺品の返却を求めたが、処分された後だった。面影を探し続ける日々。いまも女性が好きたった食べ物をとっている。

「告白する前に専門家に相談しておく手段もありません」

「人間性は同じなのに、」心が変わるのにはおかしなところがある。周囲の人は娘のありのままを受け入れていてくれれば…」

中塚幹也岡山大学大学院教授は「性同一性障害を周囲に告白する場合は、信頼できると思われる人にするだけに、拒絶されるとショックも大きい。まずはじっくり話を聞いてあげてほしい」と呼び掛ける。

「人間性は同じなのに、」心が変わるのにはおかしなところがある。周囲の人は娘のありのままを受け入れていてくれれば…」

会社は「訴訟中なので、コメントを差し控える」としている。

提訴は今年4月。訴訟で会社側は、「自殺と解雇は無関係」「性同一性障害への差別心からの解雇ではない」

からの主張は平行線をたどっている。